

作成日
改訂日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称
製品コード
供給者の会社名称
住所
担当部門
電話番号（大阪営業推進部）
緊急連絡電話番号（夜間・休日）

推奨用途及び使用上の制限

本製品における、特殊コーティングは、当社オリジナル品の為、

本安全データシート、1.の部分である、化学品及び会社情報と

3.組成及び成分情報の名称・製品コード部分の開示は一切しない。

1.3(一部)を除いた、法律に伴う部分を含んだ全てを開示します。

建材用。所定の用途以外には使用しないこと。

2. 危険有害性の要約

GHS分類
物理化学的危険性

可燃性固体 区分外
自然発火性固体 区分外
自己発熱性化学品 区分外
水反応可燃性化学品 区分外
酸化性固体 区分外
急性毒性（吸入：蒸気） 区分2
呼吸器感作性 区分1
皮膚感作性 区分1

健康有害性

特定標的臓器毒性（反復ばく露） 区分2（呼吸器）
上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素
絵表示



注意喚起語
危険有害性情報

危険
H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H330 吸入すると生命に危険
H334 吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそれ
H373 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器の障害のおそれ

注意書き
安全対策

容器を密閉しておくこと。(P233)
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。(P260)
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。(P271)
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272)
保護手袋を着用すること。(P280)
呼吸用保護具を着用すること。(P284)
換気が十分でない場合には、呼吸用保護具を着用すること。(P284)
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。(P302+P352)
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
直ちに医師に連絡すること。(P310)
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。(P314)
特別な治療が緊急に必要なである。(P320)

応急措置

	特別な処置が必要である。(P321) 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。 (P333+P313) 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。(P363)
保管	容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。(P403+P233) 施錠して保管すること。(P405)
廃棄	内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

化学名又は一般名

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法番号	安衛法番号	
メチレンビス（４－フェニルイソシアネート）（４，４’－ジフェニルメタンジイソシアネート）	1～5%	—	(4)-118	—	101-68-8

分類に寄与する不純物及び安 情報なし

定化添加物

労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9）
メチレンビス（４，１－フェニレン）＝ジイソシアネート（法令指定番号：599）（5%未満）

化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）

第1種指定化学物質（法第2条第2項、施行令第1条別表第1）
メチレンビス（４，１－フェニレン）＝ジイソシアネート（法令指定番号：448）（2.4%）

4. 応急措置

吸入した場合

加熱溶融時に発生する蒸気は、眼、鼻、喉を刺激することがあるので、異常を感じた場合は直ちに空気の新鮮な場所に移し、医師の診察を受ける。

皮膚に付着した場合

加熱溶融状態の製品が皮膚に付着した場合は、直ちに水で15分以上冷却後、火傷に対する医療処置を行う。

眼に入った場合

直ちに医師に連絡すること。
加熱溶融状態の製品が眼に入った場合は、直ちに水で15分間以上冷却し、眼科医の手当を受ける。目をこすったり、無理に開かせてはいけない。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
直ちに医師に連絡すること。

応急措置をする者の保護

救助者は必要に応じて適切な保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤

大量の水を放水する。水がないときは二酸化炭素、粉末消火剤あるいは土を用いる。

特有の危険有害性

可燃性物質：燃えるが、容易に発火しない。

特有の消火方法

大規模火災の場合、水散布すると熱水または溶融した製品が飛び散ることがあるので、泡消火剤などを用いる。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

破紙などにより使用前の製品がこぼれた場合は足下に注意し、転倒防止に留意する。
溶融物の漏洩の場合は触れると火傷につながるため、すぐには近寄らず冷却固化を待つ。

環境に対する注意事項	関係者以外は近づけない。 漏洩場所を換気する。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 作業者は適切な保護具（『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 環境中に放出してはならない。 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 希釈水は汚染を引き起こすおそれがある。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	危険でなければ漏れを止める。 使用前の製品の場合は、漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。 熔融物の場合は冷却固化を待ち、漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。
二次災害の防止策	排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 床面に残るとすべる危険性があるため、こまめに処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱注意事項	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。 換気の良い場所で取り扱うこと。 眼、皮膚又は衣類に付けないこと。 取扱い後はよく手を洗いうがいをする。 熔融物に接近する場合は、火傷防止のため手袋、長袖作業衣、保護眼鏡等を着用する。必要により、有機ガス用防毒マスク、または、送気マスクなどの吸引防止措置を行う。
接触回避	『10. 安定性及び反応性』を参照。
衛生対策	取扱い後はよく手を洗うこと。
保管	
安全な保管条件	特別に技術的対策は必要としない。 『10. 安定性及び反応性』を参照。 保管温度：2～40℃ 日光から遮断すること。 容器を密閉して保管すること。 湿気厳禁。
安全な容器包装材料	包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
メチレンビス（4-フェニルイソシアネート）（4, 4'-ジフェニルメタンジイソシアネート）	未設定	0.05mg/m ³	TWA 0.005 ppm, STEL -

設備対策	換気をしながらご使用ください。 本製品を貯蔵又は使用する設備は、眼洗浄施設及び安全シャワーを設置したほうがよい。
保護具	
呼吸器の保護具	換気が不十分な場合には、適当な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	耐熱手袋を使用すること。
眼の保護具	眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	長袖作業衣、必要に応じて保護服及び保護長靴を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観	
物理的状态	固体
形状	固体（ブロック状）
色	淡黄白色
臭い	なし
pH	該当せず
沸点、初留点及び沸騰範囲	情報なし
引火点	200℃以上（クリーブランド開放式）
燃焼又は爆発範囲	
下限	データなし
上限	データなし
比重（密度）	1.0～1.1 g/cm ³ （25℃）
溶解度	水に不溶
自然発火温度	情報なし
粘度（粘性率）	9000～18000mPa・s

10. 安定性及び反応性

反応性	空気中の水分、活性水素を有する化合物と反応する。
化学的安定性	通常の条件下では安定である。
危険有害反応可能性	空気中の水分と反応し硬化する。 活性水素を有する化合物と反応する。 水と反応して炭酸ガスを発生する。
避けるべき条件	データなし
混触危険物質	酸化性物質、その他一般的な混触禁止物質との混触を避ける。
危険有害な分解生成物	燃焼などによりCO等の有害ガスを発生する恐れがある。

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	分類結果は急性毒性（経口）一区分外となるが、分類できない成分が90%以上含まれるため急性毒性（経口）一分類できないとした。
経皮	分類結果は急性毒性（経皮）一区分外となるが、分類できない成分が90%以上含まれるため急性毒性（経皮）一分類できないとした。
吸入	混合物の急性毒性推定値が1.992mg/lのため急性毒性（吸入：蒸気）一区分2とした。 粉じん、ミストによる健康への有害性は判断できないため急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）一分類できないとした。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	分類結果は皮膚腐食性及び皮膚刺激性一区分外となるが、分類できない成分が90%以上含まれるため皮膚腐食性及び皮膚刺激性一分類できないとした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	分類結果は眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性一区分外となるが、分類できない成分が90%以上含まれるため眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性一分類できないとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	混合物の成分の呼吸器感作性一区分1の濃度がカットオフ値以上のため呼吸器感作性一区分1とした。 混合物の成分の皮膚感作性一区分1の濃度がカットオフ値以上のため皮膚感作性一区分1とした。
生殖細胞変異原性	分類結果は生殖細胞変異原性一区分外となるが、分類できない成分が90%以上含まれるため生殖細胞変異原性一分類できないとした。
発がん性	分類結果は発がん性一区分外となるが、分類できない成分が90%以上含まれるため発がん性一分類できないとした。
生殖毒性	分類結果は生殖毒性一区分外となるが、分類できない成分が90%以上含まれるため生殖毒性一分類できないとした。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	分類結果は特定標的臓器毒性（単回ばく露）一区分外となるが、分類できない成分が90%以上含まれるため特定標的臓器毒性（単回ばく露）一分類できないとした。

特定標的臓器毒性（反復ばく露）	混合物の成分の特定標的臓器毒性（反復ばく露）－区分１（呼吸器）の濃度が１％以上１０％未満のため特定標的臓器毒性（反復ばく露）－区分２（呼吸器）とした。
吸引性呼吸器有害性	固体のため吸引性呼吸器有害性－分類対象外とした。

1 2. 環境影響情報

水生環境有害性（急性）	分類結果は水生環境有害性（急性）－区分外となるが、分類できない成分が９０％以上含まれるため水生環境有害性（急性）－分類できないとした。
水生環境有害性（長期間）	分類結果は水生環境有害性（長期間）－区分外となるが、分類できない成分が９０％以上含まれるため水生環境有害性（長期間）－分類できないとした。
生態毒性	情報なし
オゾン層への有害性	データなし
その他	漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱に注意する。 漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱いに注意する。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。 廃プラスチック類に分類される（安定型産業廃棄物）。 イソシアネート成分を含む本製品の廃液は容器ごとの廃棄（金属くず類：管理型産業廃棄物）とし、他の廃液と混ぜないこと。
汚染容器及び包装	空容器類を廃棄するときは、内容物を完全に除去した後に産業廃棄物として処理または回収にまわす。 外箱、紙管など紙製容器・包装：回収または紙くずとして処理（単体で管理型産業廃棄物、付着成分がある場合も管理型産業廃棄物）。 金属缶、金属ドラム、金属チューブ類：金属くずとして処理（単独で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う）。 ガラス容器：ガラスくずとして処理（単独で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う）。 プラスチック製のボトル、チューブ、袋など：廃プラスチック類として処理（単独で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う）。

1 4. 輸送上の注意

国際規制	
海上規制情報	該当しない
UN No.	該当しない
Marine Pollutant	Not applicable
Transport in bulk according to MARPOL 73/78, Annex II, and the IBC code	Not applicable
航空規制情報	該当しない
UN No.	該当しない
国内規制	
陸上規制	消防法、労働安全衛生法、毒物劇物取締法に該当する場合は、それぞれの該当法規に定められている運送方法に従うこと。
海上規制情報	該当しない
国連番号	該当しない
海洋汚染物質	非該当

MARPOL 73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質	非該当
航空規制情報	該当しない
国連番号	該当しない
特別の安全対策	『7. 取扱い及び保管上の注意』の記載に従うこと。 容器の漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実にすること。

15. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9）
消防法	指定可燃物 可燃性固体類
外国為替及び外国貿易法	輸出貿易管理令別表第1の16の項（1） 輸出貿易管理令別表第1の16の項（2）
化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）	（第1種指定化学物質（法第2条第2項、施行令第1条別表第1）

16. その他の情報

連絡先	『1. 化学物質等及び会社情報』に記載。
参考文献	JIS Z 7253-2012 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル，作業場内の表示及び安全データシート（SDS） JIS Z 7252-2009 GHSに基づく化学物質等の分類方法 経済産業省 事業者向けGHS分類ガイダンス（平成21年3月） 社団法人 日本化学工業協会 GHS対応ガイドライン（平成20年10月） 日本ケミカルデータベース(株) SDS作成システム「ロジスト」により作成。
その他	危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。 以前にお渡しした本製品の製品安全データシートをお持ちの方は破棄して下さい。 法改正や製品の改良によりMSDSを改訂する場合がありますので、作成・改訂日が2年以上たっている場合は最新版であるかどうか御確認下さい。 MSDSの伝達の経路：製品安全データシート（MSDS）は原則として次の経路で最終取扱事業者様へ伝達されます。恐れ入りますが、未入手の場合のMSDSの御請求や最新版の問い合わせは、販売ルートを通じてお申し出下さい。【メーカー⇒代理店⇒取扱い事業者】
ホルムアルデヒド放散等級 4VOC放散速度等級基準	日本接着剤工業会自主管理規定 JAIA-011229 F☆☆☆☆ 日本接着剤工業会自主管理規定 JAIA-405135 4VOC基準適合